

第4回 CIGS 原子力と法ワークショップ

「海外から見た日本の原子力政策

—福島事故後の日本の国際貢献に向けて—」

“Japanese Nuclear Policy Viewed from Offshore Countries –Towards
Japanese Contribution to the World after Fukushima Disaster”

【開催趣旨】

日本の原子力政策や原子力事業は、国際的にどのような位置にあるのか、どのような点をどのような関心を持って評価されているのかなどについては、日本にいて把握することがなかなか困難である。特に、福島事故の後、日本政府は福島事故後も原発輸出プロジェクトを継続しているが、このような活動を行うためにも、世界の関心事項を踏まえて、日本からも積極的に世界に発信し、グローバルな原子力をめぐる議論の発展に貢献していく必要があると思われる。合理的で、明確な根拠に基づく透明なルールをグローバルに構築していくことが制度やルール等の安定をもたらし、安全性を向上させ、原子力事業の発展にも寄与するからである。例えば、福島事故の原因や国内における議論、また今後も続々と続いていくと思われる裁判の判決などに関する国際発信は十分なのであろうか。

このような問題意識で、原子力に関するトップレベルの国際機関である OECD/NEA や、原発輸出事業を担い世界を舞台に活躍をされているビジネスの立場から日本のプレゼンスや期待されている役割、さらには今後の展望などについて検討する。加えて、イギリスにおける原子力産業の展開を参照することで、日本の役割がより明確になる。また、日本の原子力損害賠償について国際発信することの意義や、その際の留意点について、日本の裁判例などを紹介しながら具体的に検討する。

People living within Japan find it difficult to obtain information on how other countries evaluate Japan's nuclear policy and industry and Japan's status in the world. Particularly, as the Japanese Government continues the project of exporting nuclear power plants even after the Fukushima disaster, there is a need to contribute to international discussions on global nuclear energy and disseminate information to the world considering global interests. The aim is to establish related policies and regulations, decrease risks, and contribute to the development of the nuclear industry by creating transparent rules based on rational and clear evidence. For example, is it sufficient to have discussed and disseminated information on the cause of the Fukushima disaster and relevant case judgements?

To examine such issues, we plan to invite a staff member from the Nuclear Energy Agency (NEA) of the OECD, a businessperson involved in the export of nuclear power plants, and a UK embassy

official. (Please note that their opinions are their personal views and do not necessarily represent the views of their organisations.) In addition, while introducing the Japanese court cases, we will analyse the significance of disseminating information with regard to Japan's nuclear damage compensation system and the points that need consideration.

- 【主催】 一般財団法人 キャノングローバル戦略研究所
 【日時】 2018年2月20日(火) 15:30~18:10
 【会場】 ステーションコンファレンス東京 サピアタワー6F 602B/C/D
 【住所】 東京都千代田区丸の内 1-7-12
 【言語】 日本語/英語 (同時通訳あり)

【プログラム】

15:30-15:35	趣旨説明 芳川 恒志 キャノングローバル戦略研究所 研究主幹
15:35-16:15 講演 1	「国際機関から見た原子力政策を巡る国際的な課題」 舟木 健太郎 経済協力開発機構(OECD)原子力局(NEA) (経済産業省より出向)
16:15-16:45 講演 2	「国際原子力ビジネスの現状と課題」 吉村 真人 日立 GE ニュークリア・エナジー(株)原子力国際技術本部 本部長
16:45-17:15 講演 3	「最近 20 年のイギリス原子力産業の展開」 “Development of UK Nuclear Industry in the Last 20 years” Keith Franklin 在日英国大使館一等書記官
17:15-17:25	休憩
17:25-17:45 講演 4	「日本の原子力損害賠償を発信することの意義」 豊永 晋輔 CIGS「原子力と法」研究会座長
17:45-18:10	質疑応答
18:10	閉会